

平成30年度第3回 岐阜県圏域地域医療構想等調整会議 主な質問・意見

番号	圏域	議題	項目	質問・意見	当日の回答・対応等
1	飛騨	議題1		<p>スライド5の5疾病5事業の中で、精神疾患医療機能、認知症医療機能について0になっているが、飛騨圏域で実施がないのか、それともアンケートの回答がなかった医療機関において実施されているのか、どちらか。</p>	<p>アンケートに回答いただいた医療機関のみの集計。全医療機関の集計ではないので、認知症関係の医療機能について、保健医療計画上、認知症に対応できる医療機関、認知症疾患医療センターについて記載がある。飛騨においては、認知症疾患医療センターが須田病院、認知症に対応できる医療機関として南ひだせせらぎ病院がある。また、圏域内で認知症に対応できる医療機関数は無床診療所含めて33か所となっている。地域医療構想上のアンケートということで、精神科単科の医療機関はアンケートの対象外であるため、結果上は0になっているが、飛騨圏域内で認知症に対応していただいている医療機関は多数ある。</p>
2	飛騨	議題1		<p>アンケートの回答が難しい。スライド12、13の診療科別医師数であるが、小規模の医療機関は総合内科、総合外科ということになる。そうすると、内科にチェックが入る。実際には、消化器内科も循環器内科も総合的に診ているわけだが、一つの回答だけだとチェックしづらい。外科も同様、乳腺外科も消化器外科もやっているが、数字に表れてこない。これらを考慮しないと、政策を誤る可能性がある。逆紹介率についても、地域には開業医が2件しかない。紹介できるところがない。そういうような状況もあるので、飛騨圏域についてはきめ細やかに考える必要があると思う。</p>	<p>今回は単純集計。分析等のご意見頂戴し、次回以降に行う。そもそも飛騨圏域は医療機関の数が少ないため、統計的に示すことは難しい。診療科の話も含めて、どういうまとめにした方がよいのか検討する。 今回は生の数字をそのまま出したが、今後どのように分析し、示していくか検討する。</p>
3	飛騨	議題1		<p>非常勤医師の数は常勤換算後の数ということでよいか。</p>	<p>そのとおり</p>
4	飛騨	議題1		<p>アンケート結果に政策医療の実施状況がある。県としては政策医療を地域で提供できるようにしたいという考えがあるということによいか。</p>	<p>地域医療構想で、個別の医療機関の具体的対応方針を考えていく中で、公立、公的病院は政策医療を担えているか確認し、民間医療機関では担えない分野を実施するよう求められていることを踏まえて、協議するよう国から言われている。これら政策医療を公立・公的病院に担っていただくことは必要だと考えている。 どの程度の医療をとという観点からは、限られた医療資源の中で検討していかないとはいえないと考えている。総論としてはやっていただくということであるが、各論となると、いろいろな条件を踏まえて皆さんで協議いただければと考えている。</p>
5	飛騨	議題1		<p>我々医療機関が、この地域でどのような医療を提供していかなければいけないのか。心臓移植を目指すわけではないが、どの程度の医療を地域の方々が求めているのか。県として、この地域ではこのような医療をやってほしいということを具体的に示していただいて、提供者側がこの部分は地域で頑張っていくと達成を目指していくのが、一つの形と考えている。どういった医療を市民、県民に提供していくべきか具体的に示していただけるとありがたい。</p>	<p>5疾病・5事業及び在宅医療については、保健医療計画において県全体の方向性や、体系図等をお示しているところ。それぞれの疾病・事業について書かれているものを基本としつつ、個別具体的には、飛騨医療圏ではこのような課題がある等ご意見いただければ、この場での協議ももちろんだが、県庁の担当課にも相談する等、検討してまいります。</p>
6	飛騨	議題2		<p>飛騨圏域においては結論は出ている。案3の地域包括ケア入院医療管理料を算定する病床を回復期的とみなす。これだけで十分。下呂市内の2病院を除いては、30キロずつ離れたそれぞれの集落について、ぽつんぽつんと点在していて、規模は小さい。よって1つの病棟の中にいろいろな機能が混在している。下呂市立金山病院は11月から8床、地域包括ケア病床を作ったものの、当該病棟はすべて急性期として報告している。ここの地域はそういうような地域。はっきり言って地域包括ケアは回復期機能にもなって、職員が一丸となって努力する。病棟単位に固執するよりも、小さな病棟の中にいろいろな機能を持っている地域なのだから、それぞれに評価することが一番簡単で、良いと思う。佐賀県で一番大事なところは、病棟ごとというものを外して、病床に注目していること。</p>	

番号	圏域	議題	項目	質問・意見	当日の回答・対応等
7	飛騨	議題2		<p>これは診療報酬を全く知らない人が作ったんじゃないか。例えば急性期で、実態では地域包括ケアや慢性期の病態の患者さんが入っていると云ったら我々叱られますよ。</p> <p>つまり、急性期の7対1の中に、慢性期が入っていても良いよということ。これは大変なことになる。7対1看護を減らそうということで始まった。回復期に行くのには、診療報酬上いろいろと限定項目があり、地域包括ケア病棟であれば在宅復帰率70%以上をクリアしないとイケない。急性期病棟の中には、はっきり言って、回復期や地域包括ケア病棟に行けない人がいる。それを急性期の中で面倒を見ている。それを回復期として計算しても良いということになれば、非常に楽ですけど、診療報酬では全く認められない。平均在院日数が21日以内とあるが、実際の急性期病棟の基準はもっと少ない。それにもっていくために頑張って急性期病棟を運営している。それが満たせないと急性期病棟と認められないので、診療報酬上外される。</p> <p>地域包括ケアについて、200床未満は病床単位も可能だが、200床以上は病床単位。定量的基準の通知についても、診療報酬の担当とは全く別の人が書いている。地域包括ケア病棟を作るのにも、色々な要件をクリアしないとできない。急性期の中に地域包括ケア相当の人がいたら回復期としていいよと、そういう人を計算して定量的にやりましようとしているが、実際にはできないため全く実態に合っていない。</p> <p>急性期であっても回復期相当なら回復期として報告しましよう、それはいいですよ。ただ、病棟ごとでないとはできない。今は病棟ごとに回復期なら回復期と決まっている。一部を回復期としてみていいよと、そう言われたら大変なことになる。</p>	
8	飛騨	議題2		<p>飛騨市民病院の一般病棟の中には、12床の地域包括ケア病床があり、在院日数60日という限度の中で運営している。厳しい条件をやっとクリアして得たもの。この資格を維持するには、相応の努力が必要で回復期を維持している。かたや、残りは10対1として平均在院日数をクリアしないとイケない中で運営している。うちの病院は病床単位で報告しろといわれても、どのように報告してよいかさっぱり分からないので、病床単位の報告というのはまったくナンセンスというのが飛騨地域の実情かと思う。</p>	
9	飛騨	議題2		<p>術後4日以内は、DPCの制度上「1」という期間で、そのあと「2」という期間があって、「2」までが急性期の期間。「3」になると点数もぐっと下がり、回復期として診療報酬上は評価されている。</p> <p>診療報酬のことも考慮して、考えていく上では、医療機関も納得できる形になると思う。</p> <p>6-1の(案2)について、視点2で「回復期病棟のうち・・・」とあるが、これは回復期病棟で抽出するのか。それとも、急性期病棟で抽出して、リハビリテーションが一定数以上多いものは、回復期的な機能として整理するということがよいか。</p>	<p>急性期病棟とご報告いただいた中で、リハビリテーションに関する項目例を抽出している。一定以上実施しているところという「一定」の基準をどうするかという議論はある。</p>
10	飛騨	議題2		<p>脳梗塞や心筋梗塞等については、早期からリハビリテーションを始めている。リハビリテーションが回復期だという概念は昔の概念となっている。早期リハビリテーション加算については、急性期のうちにリハビリテーションをやりなさいという、そういう加算ですので、それを回復期の方に整理するというは妥当ではない。保険項目について評価していただく方が、医療機関にとっては意味が分かりやすい。診療報酬制度と整合性があるような形での制度を考えてもらいたい。</p>	

平成30年度第3回 岐阜県圏域地域医療構想等調整会議 主な質問・意見

番号	圏域	議題	項目	質問・意見	当日の回答・対応等
11	飛騨	議題2		以前、県の方から2025年のプランということで、病床機能で数字が出された。あれは取っ払っておいて、このような定量的な基準ということでデータを集めて、飛騨圏域ではこのような数字が妥当だろうということを見出したいというのが目的か。	実際の病床機能報告ではいろいろと課題があり、実態と乖離しているのご指摘がある。地域の実態に合った基準が出来たら良いと思っている。実態が分かるような目安を皆さんと共有したいということ。
12	飛騨	議題2		4機能については、診療報酬とリンクしているので、なかなか難しいのかなと思う。病棟単位となると、病棟は恣意的に決められる性質のもので、運用上難しいのではないかなと思う。	
13	飛騨	議題2		地域の実情に応じたとあるが、県が考える地域というのは、飛騨圏域なのか、県全体の話をしているのかどちらか。話を聞くと、大阪府とか埼玉県とかの事例を紹介されるので、県全体で考えているように思えるが、飛騨地域のための会議であれば、飛騨地域の実情に合わせたような案を出してきて、それについて検討するという形じゃないと、どれだけ時間があってもまとまらないかと思う。	飛騨圏域に特化した項目・内容で整理ができれば、地域ごとに示したいと考えているが、困難な場合は県全体ということになると思われる。他圏域の意見も踏まえて判断させていただく。
14	飛騨	議題2		200床以下の病院としては、病棟ごとの報告に抵抗があって、病床ごとにして欲しいという案が強く出てきた。このことについて記録しておいて欲しい。	
15	飛騨	議題2		大阪府、埼玉県の例が示されたが、人口が何十倍も違うところと、東京都がすっぽりと入ってしまう飛騨圏域、佐賀県と同じくらいの面積なんではないか。こういったところの基準を参考にされて検討していくのはいかがなものかなと思う。 この会議自体が、まとまりがついていかない。3～4年出席しているが、飛騨のモデルを作りたい、全国の過疎地域のモデルとなるようなものを提案していけたら良いという話が県からあったが、今日の議論だと岐阜県を一体的に考えて、その中で同じような仕組みを作って、飛騨も飲めというように思えて仕方がないのが私の思い。 傍聴の方も多く見えていますが、第2回の会議があった際に、市町村の方々も入れなきゃだめですよ意見を言ってから市町村の方に傍聴にきていただけるようになりまして、今日の議論を聞いていると、先生方の後ろに座っている方々、おそらく病院の実務を担当している方だと思うが、そういった方と市町村の方と一緒に飛騨圏域については作業部会とかが良いか分からないが、それらの場で具体的なものを出して取り掛かっていかないと、何回やっても同じ議論の繰り返しではないかと思う。	

番号	圏域	議題	項目	質問・意見	当日の回答・対応等
16	飛騨	議題3		<p>高山市内の2病院の状況や、今後への提案等について説明させていただく。</p> <p>高山市には市内の中心部に飛騨圏域の三次救急を担う高山赤十字病院、二次救急を担うとともに飛騨圏域唯一の感染症病床を有する久美愛厚生病院がある。それぞれご尽力いただき運営されている。</p> <p>市としても、採算面等で民間の医療機関が参入できない地域において、6か所の国保診療所を運営している。</p> <p>飛騨市神岡町に近い住民は飛騨市民病院にお世話になっている状況。</p> <p>市としては、市民が安心して暮らせるよう、高山赤十字病院、久美愛厚生病院と話をさせていただきながら、2病院に対して毎年、医師確保や医療機器の整備に対して助成をさせていただいたほか、飛騨市、白川村と協力して、高山赤十字病院の救命救急センターに支援、また、久美愛厚生病院、飛騨市民病院の救急医療体制の確保に対し、支援を実施している。</p> <p>こうした中、今年度に入り、高山赤十字病院の建て替えについてヒアリングさせていただき、市としても県の地域医療構想を踏まえつつ、2つの中核病院から現況、現時点での考え等をお聞きした。県のアドバイスをいただきながら、検討を行ってきたところ。</p> <p>飛騨圏域の人口減少に伴う、医療需要の縮小が見込まれる中、将来にわたって市民に安心して暮らしていけるようにするためには、中核病院における医師の確保、安定した経営、在宅医療の確保等によって、圏域内の医療体制が、維持されることが必要でないかと考えている。</p> <p>そのためには、2つの中核病院について、現在の体制の維持、地域医療連携推進法人等による運営、さらに一步進んだ形の運営等を否定することなく、検討する必要があると考えている。</p> <p>しかしながら、このことは高山市の医療体制の範疇とは捉えておらず、飛騨圏域全体の医療の問題、ひいては、県全体の課題であるともとらえている。高山市としては、高山赤十字病院の建て替えまでの時間があまりないことも踏まえて、早期に、岐阜県の地域医療構想に明文化されている、「診療科や病床区分の棲み分けを検討する研究会・検討会」の設置を提案させていただきたいと考えている。高山市としても検討、連携する中で、積極的に取り組ませていただく所存。ぜひ、本会議でご検討いただければと思う。</p>	

番号	圏域	議題	項目	質問・意見	当日の回答・対応等
17	飛騨	議題3		<p>常滑市民病院は数年前に新病棟を建てた。それまでは、常滑市民のほとんどは、隣の市立半田病院にかかっていた。これではいけないということで、市民主導で立派な病院を建てたことにより、患者が常滑市民に来るようになった。</p> <p>ところが、市立半田病院の建て替え候補地が、常滑市民病院から3キロの位置になった。常滑市民病院を作る前ならば、話し合いの余地はあったが、今となっては難しい。</p> <p>こういうことを将来どうするかということで、話し合いの場を設け、病床機能を分化させるという形で、将来的には一つにしようという解決策を出したと聞いている。</p> <p>今の状況から言うと、各病院は機能を充実させて良い医療を提供させようとしている。2つを立てると共倒れか、どちらかをつぶすということになる。日赤の建て替えという話があるとのことだが、そのあたりを十分に考えながら、今後高山市としてやっていく必要があるのだろうと思う。</p> <p>それをやれるのは県じゃなくて高山市だけ。県としてどちらかを比較するわけにはいかないので、高山市が主導してやっていただかないと。住民は高山の人であり、住民の意見が医療を支えているので、十分に考えて構想を練っていただきたいと思う。</p> <p>今後医療需要はどんどん下がっていく。高齢者医療は増えていくが、ほかのところは減っていく。そこを踏まえて、今後の地域医療を考えていただきたい。</p>	
18	飛騨	議題3		<p>本会で検討委員会を作ったのはどうかとの提案がありましたが、それを皆さんどうお考えになるか。この地域医療構想等調整会議は飛騨圏域の今後の医療の在り方を議論する大切な会議。その要になっているのは2病院の在り方だと思っている。これを抜きにして医療構想はないと思っている。非常に大事な要素なので、何かの形でこの会議で踏み込まなければならぬと感じていたので、今後ぜひとも2病院の在り方がどのような進捗状況にあるのかを逐一この会議で知ることができるような方向性になってもらいたい。共倒れになってはいけない。高山の医療がしっかりと、地域住民としても困ったときの拠り所がしっかりと存在して欲しいなと願っている。</p>	
19	飛騨	議題3		<p>一つ心配なことがあって、検討会の設置とか、市民の声とかも大切だが、それぞれの病院の職員たちはどう考えているのか。職員の意思がうまく反映されないと、検討会の決定事項によって進めようとして、職員が退職してしまつては意味がないので、2病院の在り方を考えるのであれば、職員の意見等を吸い上げるような仕組みでないと難しく、ここの議論だけで解決するのはうまくいかない気がするので検討いただきたい。</p>	
20	飛騨	議題3		<p>資料3で定量的基準の案の中で病床数のシミュレーションを示しているが、急性期から回復期が減っている。2025年の必要病床数は現状に比べて相当少ない数ですよね。必要病床数が一番言いたいところなのではないか。これだけ減らしますよと。どうしてここには触れなかったのか。</p>	<p>必要病床数自体は地域医療構想を策定する際に、お示したものと変わっていないため、特段強調して説明はしなかった。</p>
21	飛騨	議題3		<p>両病院の院内の医師がどう思っているのかを吸い上げていく必要がある。耳鼻科、泌尿器、眼科、産婦人科等のマイナー科については、人数が少ないので、連携していけばそれなりの医師数になる。内科、外科は十分に人数がいるものの、マイナー科はもっと連携したほうがいいと思っている医者がいるかもしれない。職員も含めて、両病院の医師が何を思っているのか、そこを反映させていただきたいと思う。</p>	

平成30年度第3回 岐阜県圏域地域医療構想等調整会議 主な質問・意見

番号	圏域	議題	項目	質問・意見	当日の回答・対応等
22	飛騨	アドバイザー講評		<p>現場の先生方がおっしゃる通り、病床を病棟ごとで分けることは不可能。現場のことを知らずに県が作ったものなので、仕方がないかなと思う。人口減少が進む中、最終的なベッド数が示されている。それに向かってどうするかということを県が考えて仕事が進められている。現場を知らずに作っていると感じた。県に対してアドバイスを行いたい。</p> <p>下呂、飛騨、白川に囲まれた高山という地区でどのような医療を行っていくか。医療はサービス業であるため、1病院に集約してはいけない。地域に1つの病院を設置しそこに集約することは、市民サービスの観点からは良くない。岐阜市は同規模の病院が複数あり、切磋琢磨している。岐阜市民にとってはありがたい。そういうサービス業という面を忘れてはいけないので、単純に病院の機能だとか、共倒れとかいうことではなくて、2病院が生き残れるように、その周りの小規模な病院との間でどのような機能の分担をしていくかということが大事なので、皆さんで県庁に対して、意見を出して行っていただきたい。</p>	
23	飛騨	アドバイザー講評		<p>高山市では、「高山スタディ」という予防医学の方で高山の住民の方々にお世話になってきた。今回、医療構想の関係で携わらせていただきますが、非常に難しい問題で、国からクリアな数字が掲げられている中で、今後どのように対応していくか、一緒に議論していきたいと考えている。</p>	